

(2) $\begin{array}{c} \bullet \\ \square \square \square \square \end{array} \quad \square \quad \square \square$

$\begin{array}{c} \bullet \\ \square \square \end{array} \quad \square \quad (152) \times (12) \times 4 \quad 081$

(3) $\square \square \square \square \square \square \quad (84) \times (12) \times 4 \quad 081$

(1)は、上・下端、左・右側面が欠損している。表面に三文字分の墨書が認められるが、判読不能である。(2)は、二片が接合する。上端及び左側面が欠損しており、下端には焦げた痕跡が残る。表裏に墨書が認められるものの判読できない。(3)は、上・下端が欠損。(2)は、接続しないが、板材の状態や特徴から同一木簡の断片であった可能性が高い。

(三好美穂)

奈良・平城京跡右京北辺

- 所在地 奈良市西大寺東町一丁目
- 調査期間 二〇〇三年(平15)八月～十二月
- 発掘機関 (財)元興寺文化財研究所
- 調査担当者 岡本広義・佐藤亜聖
- 遺跡の種類 都城跡
- 遺跡の年代 古墳時代前期、奈良時代前期～鎌倉時代後期
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(奈良)

調査地は平城京跡右京一条二・三坊、北辺二坊にあり、西隆寺旧境内、及び「喪儀寮」推定地にあたる。平城京北辺地域には、明治時代からその存在も含めて議論の尽きない北辺坊が存在する。今回の調査では条坊遺構、掘立柱建物群、井戸、流路などを検出した。

奈良時代前期から中期(西隆寺創建以前)には一条北大路、西二坊大路が設置され、一条三坊側は坪内道

